



今年度の留学生

【右】池田小夏さん（小学4年・神奈川県）

・小学1年時よりモリウミアスのプログラムに参加

・留学の動機

地元も大好きだが一度違う場所でチャレンジしたいと思った。難しいことがおもしろいと思い、モリウミアスならそれがたくさんできると思ったから。

【中央】森村咲紀（小学5年・東京都）

・漁村留学検討にあたってモリウミアス初滞在。

・留学の動機

一度環境を変えてみたいという本人の意志から山村留学、島留学を探す中でモリウミアスを知った。体験留学時に昨年度の留学生がとても楽しそうに過ごしている様子を見て決心した。

【左】川村 貴羽さん（中学2年・神奈川県）

・小学1年時よりモリウミアスのプログラムに参加。

・継続の動機

学校生活が楽しかったから。
1年目に男子2人に甘えてしまった部分があり、今年はリードする存在として頑張りたいと思っている。

モリウミラス型 海洋教育の実践

今、この土地にあるものと次世代に向けた学びを紡ぎ合わせる。

①. 海と触れ合い 海に親しむ



海藻ツアー

南三陸町で環境保全、海藻の陸上養殖を实践されている施設の見学。海藻の種類や生態を詳しく学ぶ機会となった。



SUP @ 雄勝艇庫

7月1回実施
湾内を周遊、海水浴をかねたアクティビティ。雄勝湾の海洋環境を五感で感じる。



釣り
@近隣漁港・漁船乗船

魚の習性を調べ、釣りたい魚に合わせて仕掛けを準備。アイナメ・イワシ・アジなどを釣りあげ捌く。



カゴ漁
@近隣漁港

漁師さんに指導してもらい定期的にかご入れドッコ・つぶ貝・タコなどを食料としてゲット。



水族館訪問

ホヤやアイナメなどこれまで触れ合った魚介を海中から観察し、三陸の海の生き物についてより知識を深めた。



水槽飼育

水族館のノウハウを真似しながら施設内の水槽で魚や貝類の飼育。魚の動き、暮らしを日々観察して親しみを持続けた。

②. 海を利用する 海を守る



ワカメの生育観察

漁船に乗り養殖ワカメの刈り取りと観察。11月の種付けから3月の刈り取りまでの過程を知り、海洋環境への関心を引き出す。



ワカメの加工作業

収穫したワカメの塩蔵作業過程を体験。ワカメの色の変化を間近で感じ、日頃食べているワカメとのつながりを感じる。



子ども新聞の作成と配布

2月に1回実施。3つの集落合計70軒のお宅に個別訪問手渡し。今年はゴミゼロ運動など啓発的な内容を盛り込み意識変容を試みた。



漁港のゴミ拾い活動

2,3月に合計3回実施。こどもとスタッフで行った1,2回目で現状を把握。3回目は地域住民に呼びかけ漁具、ポイ捨てされたゴミを集め、意識向上につなげた。



裏山の山林整備活動

山の整備のために倒した枯れ木や間伐材を山から運搬。薪の調達が持続可能な森づくりから海づくりにつながることを伝える。



森づくり・植樹

間伐、整備した森に新しく広葉樹を植樹。山林を起点にした海洋環境保全の知識と経験を深めた。

もり うみ かに
森と海に囲まれて、
わたしは生きる。

モリウミアス漁村留学

こどもたちを育む土壌

モリウミアスの3コンセプトをベースに、
1年間暮らすこどもたちの心を育みます。

サステナブル

命の循環
自然と共生する知恵と心



釣れた魚介をお刺身に。割った薪で炊いたお風呂。あまった食材を食べてくれる鶏や堆肥の微生物たち。パーマカルチャーの仕組みを取り入れながら、いただいた命を次の命につないでいく暮らしを営んでいます。

ローカル

土地と歴史に学ぶ
未来へつむぐ



海とともに生きてきたこの土地の人々は学びの宝庫。「はま作業」や民泊を通じて、漁師さんやワザやお母さんの季節の料理を学び、日々お裾分けをし合いながら田舎暮らしの豊かさを体感します。

ダイバーシティ

新しい世界
新しい自分との出会い



著名なシェフ、カメラマン、アーティストなど、プロとの出会いは新しい世界への扉を開ききっかけになります。一緒に暮らす仲間や多くの人たちと交流する機会は、自分のことも知っていく一助になります。

モリウミアス漁村留学とは



主に都市部に住む小中学生が1年間親元を離れ、三陸の雄大な自然や漁村文化、訪れる多様な大人たちとつながりの中で「たくましく生きる力」を育むプログラムです。

対象学年は学年は小学4年生～中学3年生まで。

モリウミアス敷地内にある専用の留学棟を生活の拠点とし、平日の日中は雄勝町の小中学校に通い、放課後、週末を中心にモリウミアスならではの暮らしを営みます。

Messege

スタッフからのメッセージ



モリウミアスネーム

ケニア

安田健司 KENJI YASUDA

「たくましく生きよ」

この度はモリウミアス漁村留学に関心をお寄せいただきありがとうございます。

2015年のオープン以降これまで最長でも1週間だったプログラム。この町全体を暮らしと学びの舞台とするプログラムを重ねていく中で、首都圏のこどもたちにとっても「もう一つの故郷」のように感じてくれている姿を見て、2022年から新たに1年間の長期プログラムをスタートしました。

冒頭の言葉「たくましく生きよ」は、モリウミアスが雄勝に根付ききっかけになった雄勝中学校で、震災を機に新たに定められた校訓です。この校訓は再建された雄勝小中学校、そしてモリウミアスで今も受け継がれています。

刻々と変化していく自然を間近にした暮らし
都市部とはまた違った豊かさに溢れたこのまちでの暮らし
正解がない中でみんなで答えを作り出していく暮らし
これらの暮らしはこどもたちの生きる喜びや感謝の心を育みます。

そして震災復興から立ち上がり、コロナ禍を経て常に変化、進化し続けるモリウミアスとそこに集う人たちはこどもたちにとっての生きた学びの題材となると実感しています。

ただの体験で終わるのではない、まちと人、自然とともに1年間進めた歩みが心と体に染み込みます。不確実なこれからの世界で自分の人生をたくましく生きる。礎を築く時間を一緒につくりましょう。

日々の暮らし

自分たちの手足を動かし心と頭を動かせることで自然も暮らしも仲間の心も豊かになっていくことを1年の暮らしを通じてじっくりと感じていきます。

うまくいく日があればそうじゃない日もある。毎日毎週繰り返すことで少しずつできることが増えていく。段取り力が磨かれるとともに、積み重ねることのでられる楽しさと喜びを味わいます。

仲間と手作りの暮らし



毎日みんなで作るごはんとお風呂



日々の掃除、洗濯
気が整う感覚を養います



毎晩の話し合いと振り返りが
暮らしのベースとなります



自然とつながる暮らし



先読みして貯めていく薪作り



お世話で手をかければニワトリもお返ししてくれます



ゼロから作り上げた
屋上菜園とコンポスト

「はま」の暮らし



いつでもできる釣りとカゴ漁



ご近所さんとおそそ分けや民泊交流



季節のうつろいを感じる
海の幸やお祭り文化

プログラム

留学期間中の休日約100日と放課後の時間を活用して、多様な活動をこどもたちとつくります。

- ・いつもの暮らしに彩りや違った視点が得られるスペシャリストの特別プログラム
- ・五感の感覚を呼び覚ます自然体験
- ・専門家のアドバイスをもらいながら進める環境課題へのアクション
- ・「自分が夢中になれること」を深める個人探究

スタッフ自身も取り組むプロジェクトがこどもたちの身近な見本となると同時に、多様な人との出会いや自分自身の探究が相互に刺激し合い、その年その時しか作り出せない学びの機会を創出します。

スペシャリストとの出会い



シェフの力でいつもの食材が特別な一皿に



カメラマンの視点でいつもの風景が違った景色に



猟師さんと鹿の罨かけと解体

自然との触れ合い、森と海の再生



海を体で感じる
SUP・カヤック



間伐体験、放置林の再生
プロジェクトへの参画



スタッフとともに進める
海の藻場再生

個人探究プロジェクト



はまとモリウミアスを題材にした写真集制作



海の生き物の捕獲と水槽飼育



有精卵を温めてヒヨコの孵化

こどもたちとともに過ごす仲間たち



スタッフとともに歩む1年

野外教育資格、調理師、専門学校卒、教員免許取得者など、20～30代のスタッフがそれぞれの得意分野を生かしながら暮らしをつくります。スタッフも暮らしの一員として意見やアイデアを持ち寄り、1人の「ひと」としてこどもたちと向き合います。仲間であり家族のような存在を目指しています。



訪れる人たちとの関わり

モリウミアスでは、週末のこどもプログラム、児童養護施設などの団体利用、アーティストインレジデンスや大学生社会人インターンなどの受け入れがあり、年間1,500人以上の人たちが訪れます。これらの人たちと交流を通して、自身の環境との比較や等身大の大人の姿に触れ、多様な価値観が醸成されていきます。



大人と同じ社会の一員

芋煮会や運動会などのモリウミアス主催の地域行事、東京でのチャリティイベントなど、コミュニティとして多様な場を作り上げるのがモリウミアススタイル。こどもも当たり前のように役割を担うことで、大人とより対等な関係が自然とできあがり、真に自立、自律した姿勢が身につけられます。

参加した保護者の声



2022年度 参加者保護者

「息子自身が楽しくて仕方がないって感じでよかった。せっかくこの雄勝という土地にご縁があって来たからこそ、ここでできないことに感謝しながら楽しんでくれたら。」

参河祥道さん (中1男子保護者@大阪府 写真上右から3人目)

「最初はネガティブな手紙を送っていたが、離れているからこそお互いのありがたさを知れる機会となっている。離れてみてよかったとお互いに話している。」

川村直子さん (中1女子保護者@神奈川県 写真上左端)

保護者インタビュー記事

「“手応え”と“温もり”のある暮らしが、家族にもたらしてくれたもの」

安達 一郎・理穂さん
(中2男子保護者@東京都 写真上右端)

保護者さんの記事

「漁村留学。それはこれから生きるための土壌を耕すような時間～小4で親元を離れて暮らす娘の姿に思うこと～」

池田美砂子さん
(小4女子保護者@神奈川県 写真下中段左から2人目)



noteにて掲載中!



2023年度 参加者保護者スタッフ

漁村留学の仕組みと体制

留学にあたってはモリウミアスが身元引受人となり、お子さまの住民票の移行が伴います。転出手続きについては保護者の方に進めていただき、転入・転校手続きについては委任状をもとにモリウミアス・学校間で代行いたします。

